

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第7号

1. 気象概要（アメダス：唐津地点）

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8
7	4	26.6	29.7	30.5	34.6	23.6	26.4	45.1	0.0	31.7	39.2
	5	27.3	29.1	31.4	35.0	24.3	24.8	26.5	0.0	35.6	55.8
	6	28.0	29.2	32.2	34.4	24.9	25.7	24.5	0.0	47.6	61.7
8	1	28.3	29.7	32.5	34.4	25.0	26.5	20.9	0.0	41.3	50.2
	2	28.2	29.6	32.3	34.3	25.0	26.7	26.8	0.0	39.4	26.7

8月1半旬～2半旬までの平均気温は平年より1.4～2.4℃程度高く、降水は無く、高温少雨傾向で推移した。7月7日に降雨があり、7月8日に梅雨が明けて8月13日までの38日間降水は確認されていない（アメダス唐津）。

2. 生育状況（調査日：8月13日）

項目 品種 (設置場所)	年 次	出穂期	止葉葉位	概 要
コシヒカリ 唐津市厳木 町天川 5/16 移植 標高 550m	本年値	7月28日	12.7	・出穂期は平年より4日早くなった。 ・止葉葉位は平年並み
	平年値	8月1日	12.8	
	平年比	-4日	-0.1	
夢しずく 唐津市相知 町伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	8月11日	12.4	・出穂期は平年並みとなった。 ・止葉葉位は平年並み
	平年値	8月11日	12.3	
	平年比	±0日	+0.1	

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 唐津市相知 町相知 6/20 移植 標高 10m	本年値	74.9	507	13.3	34.9	平年と比較して ・草丈は平年並み ・茎数はかなり多い ・出葉はやや少ない ・葉色はやや淡い
	平年値	75.4	441	13.9	35.3	
	平年比	99	115	-0.6	-0.4	

※平年比の【草丈】【茎数】は平年比、【主稈出葉数】【葉色】は平年差で表記している。

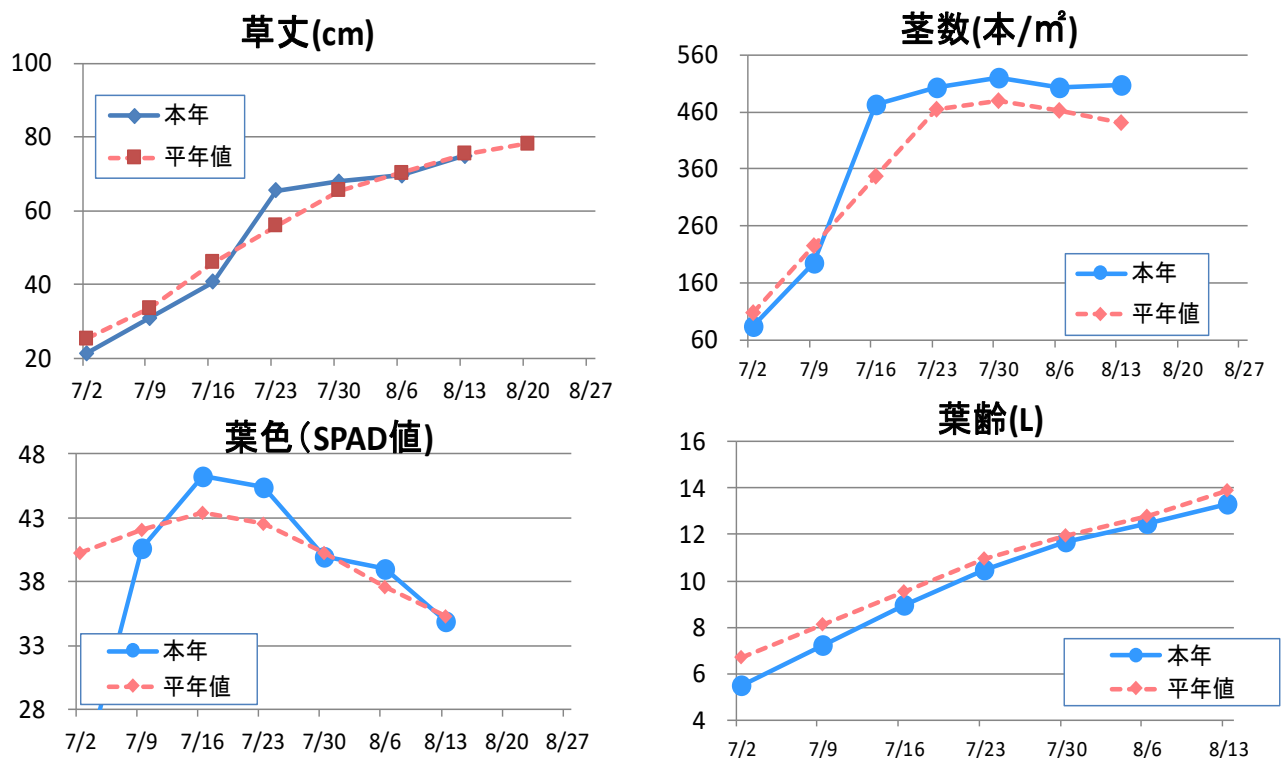
(1) 山間早植え

- ・現在、乳熟期から糊熟期を迎えている。

(2) 普通期水稻

- ・「夢しずく」は、出穂期を迎えており、「さがびより」は幼穂形成始期を迎えている。
- ・「夢しずく」の作況圃場において、イネカメムシの発生を確認した。
- ・「さがびより」では、いもち病の上位葉への進展が確認されているほか、コブノメイガの第2世代幼虫期を迎えており上位葉の食害が増加している。ウンカ類の払落し調査では、ウンカ類の数頭の寄生を確認している（調査結果は次ページの表を参照）。

◎「さがびより」作況ほの生育グラフ（相知町相知）



●ウンカ類発生状況調査結果（25株払い落とし）

調査地	トビイロウンカ				セジロウンカ				ヒメトビウンカ			
	成虫	幼虫			成虫	幼虫			成虫	幼虫		
		老齢	中齢	若齢		老齢	中齢	若齢		老齢	中齢	若齢
①	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
②	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	2

3. 今後の管理

■干ばつ対策

- ・このまま降水がない場合、干ばつによる被害が懸念される。以下を参考に用水を効率的に利用し、被害を最小限に抑えるように努める。

- ・日中は若干萎凋していたとしても、朝夕は正常に戻っていれば被害は最小限に抑えることができる。穂ばらみ期に葉の先端の水孔からの排水が止まる（日暮れになっても先端に水滴がつかない）と白穂が発生する危険性がある。
- ・幼穂形成期に白乾で経過し、穂ばらみ期に急激に灌水すると、根の活力が失われるなどして、登熟不良になることが懸念される。干ばつ後は、最初に「はしり水」などして湿潤状態で経過させ、その後湛水管理とする。
- ・用水が不足する地域では、用水の効率的な利用に努める。
- ・蒸散量の少ない夕方から未明の灌水により、水稻の萎凋・枯死等の被害を軽減できる。

(1) 山間早植え

①栽培管理

《水管理》

- ・収穫約1週間前の落水時期まで間断灌水を継続する。
- ・中干し機関の断続的な降雨により十分な中干しができなかった圃場では、間断灌水の落水期間を長めにとるなどして田面を固める。

(2) 普通期水稻

①栽培管理

《水管理》

- ・6月上旬移植の「夢しずく」では出穂期となっているため湛水管理とし、穂揃い以降は間断灌水による水管理とする。
- ・6月中旬移植の「さがびより」では、幼穂形成始期を迎えていることから間断灌水による水管理とする。

《肥培管理》

- ・6月上旬に移植された「夢しずく」では、穂肥の時期は過ぎている。
- ・6月中旬に移植された「さがびより」では幼穂長 10mm 程度となっており、穂肥施用時期を迎えている。次ページの穂肥診断基準に基づき、施用時期を逸しないよう穂肥を適切に施用する。
- ・今後も気温は高く推移する予報であり、穂肥を施用しない場合は登熟期の栄養不足により品質の低下が懸念されることから、緩効性の基肥一発肥料を使用しておらず葉色が褪めている圃場では積極的に穂肥を施用する。
- ・いもち病など病気が多発している圃場では、穂肥の施用により感染拡大を助長する可能性があるため穂肥を減肥する。

1)「さがびより」の穂肥診断基準

早過ぎる穂肥は収量の過剰につながるので注意する。

幼穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		施用量	
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg / 10a	
75cm 以下	3.0 以下	33 以下	20-18	5mm	3.0	
	3.0	-	33-37	18-17	10mm	3.0
	3.3	-	37-38	17-16	15mm	2.0
	3.5	-	37-38	17-16	15mm	2.0
	3.8	-	37-38	17-16	15mm	2.0
	3.8 以上	39 以上	施用しない			
75 ~ 80cm	3.0	-	36 以下	18-16	10~15mm	1.5
	3.3	-	36 以下	18-16	10~15mm	1.5
	3.5 以上	37 以上	施用しない			
80cm 以上	施用しない					

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後 1 日当たり 1cm 増減する。

(3) 病虫害・雑草管理(山間早植・平坦普通期共通)

《病虫害関係》

①トビイロウンカ

- ・発生状況は圃場毎のウンカ類の定着度合にも左右されるため、圃場での発生状況を把握するとともに、次ページの発生予測図(図1)を参考に適期防除に努める。
- ・防除は、効果の最も高い幼虫ふ化揃期に実施するとともに、圃場は湛水状態とし、薬剤は株元まで届くように留意する。

②コブノメイガ

- ・現在、第2世代幼虫期を迎えている(図2)。発生が多い圃場では、圃場での発蛾最盛期(成虫発生盛期)を確認し、その1週間後に防除を行う。なお、大規模経営など発蛾最盛期の把握が困難な場合はカルタップ粒剤などを用いた防除を検討する。

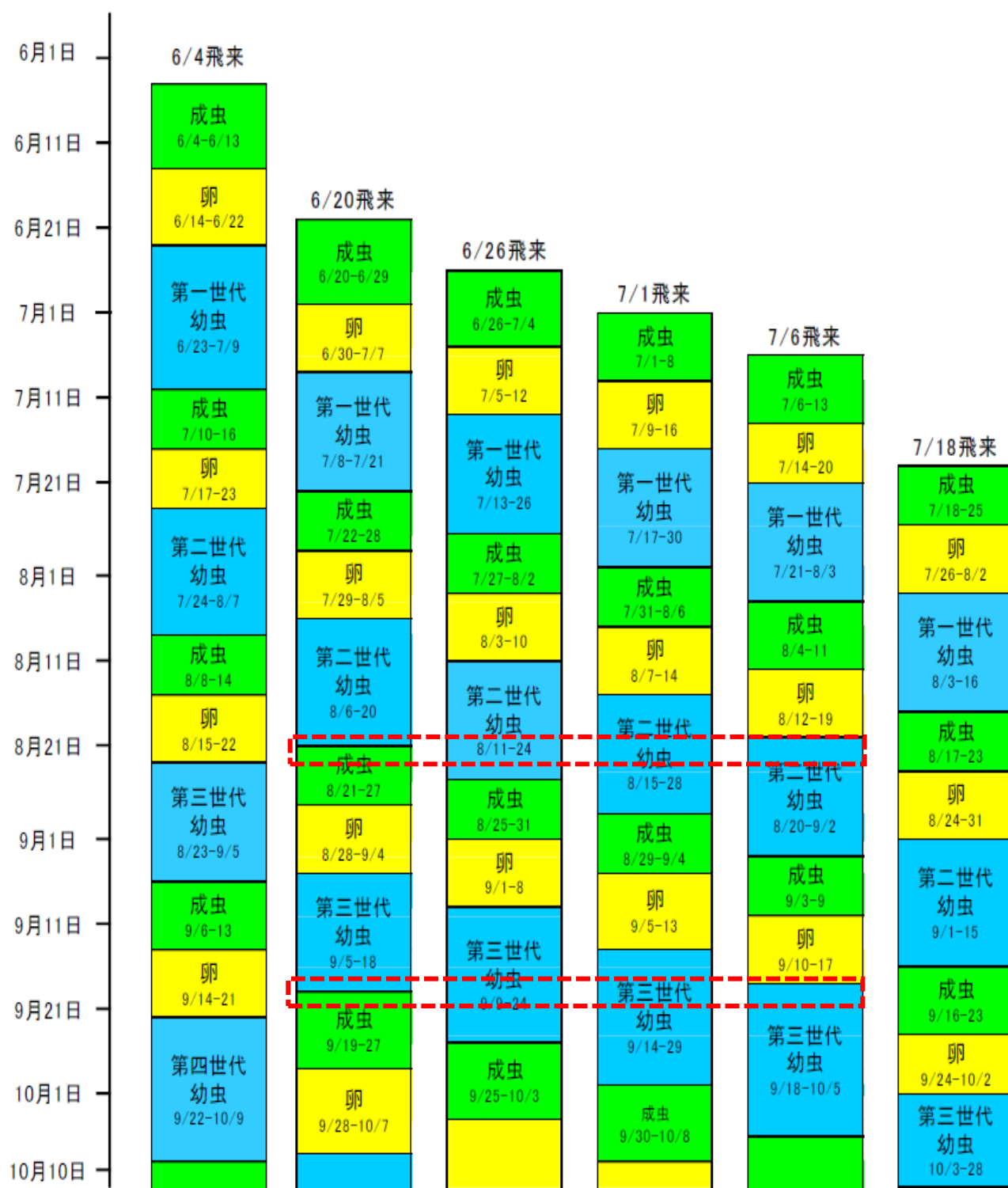


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第2版、2026年7月26日作成）

1. 6月3～6日頃（図では6月4日）、6月17～20日頃（図では6月20日）、6月26～27日頃（図では6月26日）、7月1～2日頃（図では7月1日）、7月4～6日頃（図では7月6日）、及び7月16～20日頃（図では7月18日）の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月26日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。

2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。

3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。



図2 コブノメイガ各世代の発生予測（第2版、2026年7月26日作成）

1. 6月20日頃、6月26日頃の飛来虫を起点とし、コブノメイガの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月26日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 13℃、発育上限温度 28.5℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

③いもち病

- ・7月5半旬以降、気候は高温多照傾向で推移していたが一部圃場において病斑の急激な増加が確認されている。「さがびより」情報田においても病斑の上位葉への進展を確認している。
- ・上位葉にいもち病の進展型病斑が確認された場合は、穂いもちの発生が懸念されるため、農薬成分カウントや収穫前日数に留意しながら、オリブライト 250G 等で臨機防除を実施する。



いもち病（停止型）



いもち病（進展型）

④紋枯病

- ・高温多湿条件で多発する。
- ・今年は、夏季が高温になる予報であることから、本病の発生に注意が必要である。
- ・本病が多発した場合、稲体の支持力低下により倒伏が助長され、収量品質の低下や収穫作業への支障を招くため圃場の発生状況に応じて適切に防除を実施する。
- ・粒剤の場合は出穂の30～20日前、水和剤及び粉剤の場合は出穂の20～10日前を中心に防除を行う。



紋枯病の病斑



被害株に形成された菌核

⑤カメムシ類

（斑点米カメムシ類）

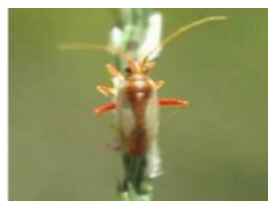
- ・県では、すでに早期水稻に出していた注意報に加え、早植え水稻及び普通期水稻を対象に令和8年7月29日に注意報を発令した。今後、普通期水稻では8月中旬頃から出穂時期を迎えることから、以降を参考に適切に防除を実施する。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ

- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの増殖・飛来源となるため、耕種的防除として出穂 10 日前までに除草作業を行う。それ以降に除草作業を行うと、畦畔に生息する斑点米カメムシが圃場内に移動し被害が助長される。
- ・斑点米カメムシ類の防除適期は、乳熟期（出穂約 10 日後）、発生が多い場合は穂揃い期と乳熟期の 2 回防除を実施し、被害防止に努める。

（イネカメムシ）

- ・出穂期にイネカメムシに加害されると不稔粒となり減収となる。
- ・近年、県内においても発生が確認されており、被害の拡大が懸念されている。
- ・特に周辺より出穂が早い、または遅い圃場では飛来が集中し被害が大きくなる可能性があるため、圃場をよく観察し、発生が多い場合は、出穂期の防除を行う。



イネカメムシ

※穂ぞろい期や乳熟期に防除を行う斑点米カメムシとは防除適期が異なるため注意する。

令和8年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター

